

断酒 みどりの友

発行所 呉みどり断酒会
事務局
呉市 押 込 5-12-25
渡部 憲方
郵便番号 737-0915
電 話 33-5571
発行人 渡部 憲
編集代表 石橋 剛
印 刷 松広印刷



江戸時代『朝鮮使節団』で賑わったという下蒲刈島



「酒害体験を語ろう」

副会長兼事務局長 曾根 敏浩

長年にわたる大量飲酒のなれの果てが、一度目の「幻覚・幻聴」でした。この出来事で妻はこれでもかもう酒を飲まない、飲めないだろうと思ったそうです。しかし、当の本人は風邪が治った位感覚でした。アルコール依存症という自覚はありませんでした。

飲ませまいとする妻に腹を立て怒り、憎しみを覚え、反抗するかの様に大量飲酒を続けました。こんなはずではなかった、こんな飲みかたではなかったと考えても、私のお酒は既に十分周りに迷惑をかけるだけのものになっていました。そんな生活が楽しいはずもなく、上手くいくわけでもなくだからと言って、お酒を止めることもせず飲み続けたなれの果てが二度目の「幻覚・幻聴」でした。十年前の一月でした。年末からの連続飲酒にくたびれ、お酒が抜けかけてきた時でした。一度目と同じように自分にしか聞こえない声を追いかけ、自分にしか見えない姿を探し求めて、隣の家に押しかけてみたり、近所の公民館の中

に、さらにそのトイレの中まで覗いてみたり、知らない人に、道行く人に声をかけてみたり、最後には警察官に頼んでみようという所の中に入れてみましたが、誰もいませんでした。もはや正気の沙汰ではありません。周りの人から見れば異様な行動であったと思います。諦めて自宅に帰りましたが、今度は攻撃される、脅される、気違い扱いはされる「幻覚・幻聴」に怯え、耐え切れずに妻に頼んで翌朝、呉みどりヶ丘病院に行きました。閉鎖病棟入院となり、一週間後の退院と同時に呉みどり断酒会に入会しました。

みどり会にお世話になって、「酒害体験を語ろう」と教えられました。酒で、酒での出来事であり多くの記憶がありません。また、そんなに大袈裟に言わなくてもとの思いがありました。だから「そんなに迷惑をかけてきたのか？」と思っていました。例会の中で「酒害体験を自らの口で語り続け」、同じ失敗を二度と繰り返さないようにしていきたいと思えます。

創立四十七周年記念例会 体験発表



片山 久人
(本人)

皆さん、こんばんは…。私は、呉みどり断酒会の片山久人です。

この様な、呉みどり断酒会創立47周年記念例会というお祝の場で体験発表の時間を与えて頂き、大変有り難く光栄に思っています。宜しく、お願い申し上げます。

私は、片山自動車板金塗装店の片山桂次の長男として、昭和40年に生まれました。私が幼い頃、友達と夕方の5時まで遊んで父の工場に行くと、父は仕事を終えて相撲観戦が始まります。『久人、ビール買って来いや〜』と。私は近くの酒屋にキリンビール2本とお揃いを買って行き、私は、キリンレモンです。夕食の時、父の膝の上に座り、父の飲んでいるビールに興味を持ち『泡だけ頂戴〜』と

せがむと、子煩悩な父は『ちよつとだけどオ』と飲ませてくれました。『こんな苦いのをよう。飲むのオ』と子供ながらに思いました。でも、ちよつとふらつとする気持ち良さは覚えていきます。そして、『一杯飲んだら馬鹿になるで〜。早よう宿題をせえ〜。』とよく言われていました。

高校は、呉工業高等学校に入りました。当然、学校から見える呉みどりヶ丘病院は、精神病院と知っておりました。まさか、私が30年後にお世話になるとは思ってもいませんでした。また、自動車免許を取るのに呉の福寿荘ホテルの厨房で友人とバイトをしました。当時、呉で南海ホークスがキャンプしていた時代です。福寿荘は2軍の選手が泊っており、晩の料理を終えた後、親しくしていたコックさんに呼ばれ『女将にや〜分かりますわいや〜』と、毎日ではなかったのですが、友人と3人で

勝手にビールを飲んでいました。夏休みは、呉の繁華街の酒屋でバイトです。午前中は、飲屋街を廻わり注文を取り、午後から配達。高校時代から、色々なお酒を眼にして来ました。そのうち、酒屋で売っているウキスキーのミニボトルをコレクションする様になりましたが、最後にはそれらのお酒まで手を付けることになりました。

そして、高校を卒業したら、あの店に飲みに行くんじや…。あつこじやろオ、あつことあつことあつこじやろオ…!!と、呉のネオン街を点々とするようになってました。

お酒を飲んでいいる時、店のお客と…。私の酔った勢いでの一言で自衛隊員5・6人との口論・喧嘩。楽しんで飲む酒が一気に深酒に結



びつきます。若い時は、すぐに吐いては飲む…。吐いては飲む…。吐いたら、酒に強くなるんじや…。と、1フィンガーでは駄目、2・3フィンガー…。とにかく、濃い酒を胃の中に流し込んでました。

卒業後は、父の自営業は継がず、精密板金加工の鉄工所に入社しました。私が24才の頃、会社の部長さんが会社を設立するので3人でやらないかと誘われ、私は今の社長について行く事にしました。設立後は、納期に間に合わない仕事も多く、連夜の残業が続ぎ、短納期なもの、図面を家に持って帰り、焼酎を飲みながら材料取り。段々と会社への不平不満も家に持つて帰るようになってました。体がくたくたに疲れていても、晩のお酒は365日、たらふく飲んでいました。少人数の会社は、休むこともできず、毎朝コンビニで栄養ドリンクを飲み出勤。当然のごとく飲酒運転の出勤でした。たまに友人と出勤時にすれ違うのですが、『お前、どす黒い顔で運転しよつたのオ。』と、よく言われてました。

平成11年1月、父、61才で他界。父との別れで、私は人生のどん底に叩き付けられた気分になり、精

神的・肉体的にも落ち込んでしまいい、中々自分を取り戻す事ができない生活が続き、仕事も上手くいかず、酒という魔物に取り付かれていきました。そんな時期、私が部屋で飲んでると、妹が乱入して来て、私の酒のグラスをとり上げようとします。私は、取られまいと必死に抵抗：：。『何でお兄ちゃん、そがアに飲むん：。早よう死にたいん：。何で：。』グラスの焼酎が床に溢れ落ち、母は頭の上からキィキィ声を出し、部屋中ぐちゃぐちゃ：。母や妹には暴力はなかったのですが、その後、私はコンビニに行き、酒を買ってぐちゃぐちゃになった部屋で寝るまで飲んでました。

生活の中、酒をたらふく飲み、母や妹への暴言が増していく中、そのような私にもお見合い話が来るのですが、一日位我慢をすればいいお酒をお見合前日に飲んでしまい、何回やつても『どの位、飲まれるんですか：。』と聞かれ、断われてしまいます。お酒が絶えなかった私、暴言で『われ、すどれ』と言いつまらない、どうでもいい、どうしようもない、いつも悪い事ばかり、投げ遣りな口調でし



た。ある日突然、一人はどすのきいた声の男性、一人は鼻声の男性、一人はヤンキー女性：。三人から『お前を殺す。漁師をやめんにや〜お前を殺しちゃうぞ〜』と脅かされ、攻められる幻聴が聞こえ始めました。それは、家の前の消防署の拡声器から、テレビを見てるとテレビの奥から、寝てると天井裏から誰かに狙われ、脅かされる幻聴でした。

幻聴が聞こえはじめて三日目、近くの内科医の紹介で、高校時代横目で見た呉みどりヶ丘病院に入院となりました。平成21年7月2日から10月30日迄の入院。退院後、暫くして『少しなら、ええじやろう。』と心が動き、飲んでしまいました。二度目は、平成21年12

月10日から平成22年3月13日迄の入院でした。退院後、社長に頭を下げ、職場復帰できました。社長は、『今度飲んだら、自分から身を引いてくれよ!!』との事で入院し、退院して来ましたが、社長は彼をクビにしました。それで、他の部下から『何で工場長はクビにせんのか。何でアル中を雇うん：。』と。それを聞いてた私は、何とも言えない苦しく、はがゆい気持ちになりましたが、断酒会のお陰で下腹に力を入れ、お酒を口にするにはありませんでした。

自分がどれだけ愚かであろうしやうもない男か：。すぐにやけを起こし、酒を飲んでは無様な醜態を何十回も繰り返して来た事を思い出させてくれる断酒会。今迄、私は貸切バスでの参加する大会にしか行かなかつたのですが、少しづつ考えが変わり、昨年は先輩に誘われて、初めて山陰断酒学校に参加させて頂きました。そして、終了前に入会者を代表して研修証を受け取らせて頂いた事は、断酒の励みになり、断酒会の皆様には感謝の気持ちで一杯です。

沖繩の全国大会では、会員・家族の方達の多さに感動と断酒の心を頂きました。また、帰りの出来事なんです、私の母が『これ、買ったんよ。見てや、見て：。』と大きな声で私に話し掛け、国際通りでいつのまにか買ったネットレスを私に見せに来ました。そこはホテルのロビーで、会長さんをはじめ、先輩方が座っていたのですが、先輩はニヤツと笑いながら『お母さん、声が大きいですよ：。』ここはロビーですよ：。』と言いつつ大爆笑でした。私が飲んでいた時、頭の天辺から出していた母のキィキィ声、今は活き活きとした声になったような気がします。

もう、お酒には負けない『ぶれない心』。断酒は、一人では止められない：。と言う気持ちを持たせて下さった断酒会の先輩・仲間・家族の皆様から感謝をしております。有り難うございました。

今、私はこう思っています：：。自分のやった事を許してもらいたい：。きつと、未来は良くなるだろうと信じてもらいたい。私の未来を見守ってもらいたい。倅せになりたい。私は、例会出席をしておれば、必ず更正できると思つてますので、頑張つて参ります。



胤森 佳代子
(家族)

主人と私は、平成二年四月に主人の勤務先の前身であるNEC広島に同期入社しました。

その頃は、いわゆるバブル時代で会社も創業二年目ということもあり、まだまだ立ち上げ真っ只中の入社でした。

忙しい日々を送っていたその年の秋に、主人は会社で突然倒れました。『一型糖尿病』と診断され、毎食前のインスリン注射が欠かせなくなったのが二十二歳、それから現在に至っています。

平成五年三月に結婚。私は退職しましたが、結婚当初は、一型糖尿病のこともあり、晩酌は缶ビール一缶飲むくらいでした。しばらくして、新工場の立ち上げに関わる事になり、出張も多く、行く先々で飲み会、各メーカーさんの接待と、飲む機会が増えていきました。帰日も夜中の二時、三時は当たり前前でした。それでも、やり甲斐のある仕事だったのか、次の日も休む事なく出勤しました。そ

の頃は、あまり外では飲まず、休みの日は一緒に友達と旅行に行ったり、テニスをしたりと、楽しく過ごしていました。

しかし、結婚十年目くらいから自宅に仕事を持ち帰る様になり、飲酒の量がどんどん増えていきました。パソコンに向かいながら、片手にはビール。朝起きるとパソコンの周りは空き缶が何本も転がっている状態でした。休みの日も仕事ばかりで、イライラしてくるとお酒を飲み始め、また空き缶だらけでした。

こんな日が続くので、やめてくれるよう頼むと逆ギレされ、喧嘩になり一日中口をきかない日も度々ありました。

結婚当初から、主人の『血糖値』を気にしながらの生活で、主人が寝てからも、寝返りや息づかいで目を覚まし、低血糖状態の時には顔を何度も叩き、ブドウ糖を飲ませることもありまし、救急車を呼んだこともありまし。

それなのに、何故そこまで飲むのが全く理解出来ず、腹が立ち、私の方が精神的におかしくなっていた様に思います。

主人も仕事のストレスを飲むこ

とで発散させていたのかもしれない。「何かあったの？」と聞いても「別に…」の一言で、ただただ飲むといった感じでした。

酔いがまわつてくると上司や仕事への不満が爆発し、「あいつ腹が立つわあ」「あいつが上司だとダメじゃ!」など、それとも回らない状態で何時間も愚痴るのです。最後には私への不満で暴言を吐く様になりました。

あれだけ喜んで行っていた飲み会にも全く行かなくなり、家で独りで飲むようになり、笑うことすらなくなりました。



平成二十年六月頃から、度々会社を休むようになり、部屋に引きこもるようになりました。いつもため息ばかりで、ぼうつと

し、一週間連続で休みました。〈もしかして、主人は『うつ病』ではないだろうか?〉と思い、言おうか迷っていると、本人の方から『わしってうつ病なんかの?』と、ポツリと言いました。

私は直ぐに病院を探して診療内科に連れて行きました。診断は『うつ病』と『アルコール依存症』でした。私達は『うつ病』だからアルコール依存症になつたんだから、うつ病が良くなればアルコールも辞められる、元気になると思て二ヶ月間休職をしました。

そして、仕事に復帰すると、中国の工場の立ち上げプロジェクトメンバーになり、意欲的に仕事をしていました。(これで大丈夫だ)と思つて安心したのも束の間で、不況で計画中止となり、また再飲酒が始まり、七ヶ月後には二度目の休職することになり、今度は二年間という長い休みとなりました。

私も仕事をしているので、主人を家に一人にして大丈夫だろうか、と休憩時間になると電話をかけた、飲んでいないか確認する日々でした。いつも頭から主人のことが離れず、かと言って、誰にも相談すること

も出来ず、本当に辛い毎日でした。平成二十二年秋に復職し、自分から『降格』を申し出て異動願いを出しました。しかし、しばらくして今度は会社の経営破綻により異動もかなわず、またしても連続飲酒となりました。この頃が私にとって一番辛い時期でした。

「何故そんなに飲むん？」と責めれば、隠れ酒が始まり、トイレ、ベランダ、庭とあらゆる所から空き缶が出てきました。また、血糖値が高いと言って散歩に行くのですが、近所のコンビニで酒を買い飲んで帰って来るようになりました。「飲んでじゃろう？」と責め、「飲んでるかいや!!」と主人、結局喧嘩となり、主人の暴言に耐えられず、車の中で寝た日もあります。暴力こそありませんでしたが、「お前がおらんかったらいいのに」「出て行け!!」「死ぬ!!」と近所に聞こえるくらいの大声での暴言。

二度目の復職から、勤務先が近いこともあり、主人の送り迎えをしています。今度は出勤前から飲む様になりました。

連絡があり、直ぐに迎えに行きました。私が着くなり保健師さんから「ご主人はアルコール依存症ではないですか？」と聞かれました。私は、限界だったので「はい。その通りです」と答えました。



医務室に行くと、主人はイビキをかいてベッドで寝ていました。それを見て腹が立ち、情けなくて仕方ありませんでした。産業医、上司、保健師さんの五人で話しをしました。会社でもフラク／歩いているとか、下駄箱の中に飲みかけのチューハイがあつた：など聞かされ、やつぱり飲んでいたのでかシヨックで涙が止まりませんでした。私が、「クビですか？」と聞くと、会社の方は「そうならならい為にも専門の病院でちゃんと入

院治療をして下さい。治療を受けるまでは会社に来ないで下さい。そうしなければ、二人ともがダメになりますよ」と言われました。会社に、これだけの迷惑をかけた上、治療を勧めて下さったことに今でも大変感謝しています。そのことを、後日主人に伝えるとシヨックを受けていました。

次の日、呉みどりヶ丘病院に紹介状を書いてもらいました。でも、主人は入院治療する決心がつかず、受診までで一週間かかりました。いざ受診したら院長先生と会話すること、以外にも主人はあつさり入院を決めました。朝まで嫌そうな顔をしていたのに、「じゃあ」と言つて素直に三病棟に入つて行つたのです。近くに住む両親にも伝えたところ、びつくりしていました。

退院間近に、会社に面談に二人で行つた時、外資系企業になり、社名が変わっていました。その時、上司の方から新しい社員証を受け取つた主人の嬉しそうな顔が忘れられません。

そして、入院した頃は『断酒会』には入らなくても大丈夫だと言つていた主人が、八月に入つてから

「体験で水曜例会に行くから一緒に行くこう」と言つてくれました。ちようどお盆で、呉みどり断酒会の皆さんに笑顔で迎えて頂き、本当に嬉しかったです。

「退院したら断酒会に入るわ」と主人の方から言ってきたので、私も早速家族会に入れてもらい、今まで誰にも相談出来なかつたことをこれからは聞いてもらおうと思っていました。

昨年九月に退院。すぐに呉みどり断酒会に入会し、五ヶ月過ぎました。今、主人も仕事に復帰し、ゆつくりではありますが頑張っています。院内ミーティングで、たまたま家が近所だつた渡部会長との出会いがなければ、この会に繋がつてなかつたかもと主人は言っています。

私は主人の笑顔が大好きです。断酒会に繋がつて、主人の穏やかな顔、笑顔をまた見ることが出来ました。

まだまだ勉強不足の二人、いつ挫折するかわかりませんが、頑張つて先輩についていきます。





名田 信之
(本人)

皆様、こんにちは…。本日は、体験発表の機会を頂き、有難うございます。呉みどり断酒会の名田と申します。

私は、25年前の入社から、飲み過ぎては内科受診を繰り返して来ました。3年前、会社の保健師の方から『様子がおかしいので、一度入院して心身を初期化してはどうか。』との勧めがあり、内科を受診。医師からは『入院しましょう。しかし、顔の表情・目つきがおかしいので、一度精神科を受診して欲しい。』と勧められ、結果、抑うつで2ヶ月間、呉医療センター精神科に入院しました。退院後、復職しましたが、飲み続けて体調は悪くなり、就業困難と判断されて当院に入院しました。4ヶ月の入院とケアでの2ヶ月の生活終え、会社に復帰して2年半です。退院後、呉みどり断酒会に入会し、断酒を決意。院長先生に診て頂きつつ、例会出席。心理の先生にもお世話になってます。身体は、健

康になりました。しかし、断酒後は苦しい毎日が続いています。復職後、元のシステムエンジニアから事務職に職種変更。給料も下がりましたが、真面目に働いていました。1年後に早期退職を勧められました。断りましたが、次は大阪異動を命じられ、今は大阪で勤務をしています。

断酒後『良い事があつたか。』と考えてみると、苦しい毎日です。しかし、バラ色の生活ではありませんが『少しずつ変わって来た気持ち!!』を本日はお話ししたいと思います。

30歳代の頃は、楽しい酒。結婚して晩酌しながら奥さんと夕食をとり、幼い2人の女の子の寝顔を見ながら子供を挟んで眠りに就いていました。布団の中で子供を抱きしめると『お父さん、大好き。大好きお父さん。また遊ぼうね。おやすみなさい。』幸せでした。40歳を過ぎた頃、楽しい酒が仕事上のストレスから、除々に酒量が増え、一人での暗い酒・ヤケ酒。やがて、現実逃避の酒に変わっていききました。

外で飲んで家に帰り、階段から転んで頭を切つて救急車を呼んで

もらつたこともあり。奥さんからは『酔つて普通怪我するか？近所にも体裁が悪い…。最近は何も残業もせずに給料も少ない。周りの父さんは、女房・子供のために必死で働いているのに…。それでも大黒柱か…。もう、あなたに



養ってもらいたくない。』と言われ、ていきました。子供には、酷い仕打ちやひもじい思いはさせたことはなく、よく遊びに行つたり、勉強を見たりと普通のお父さんのつもりでした。しかし、そう思っていたのは、私一人だったかもしれせん。『酔つ払つて帰宅するお父さんは、何ほでもおるじやる…。』そして、相手がどう思うのかとか考えずに『何が悪いんか?!』と思つていました。

上の子供が小学1年生になった時、子供部屋を造るからという理由で、私一人離れの部屋に移されました。今までの部屋の内側から家具を置かれ、ドアノブには鎖を巻かれて封鎖されてしまいました。

私は、自分の部屋専用の階段を下り、玄関を出ていくような生活になりました。元の奥さんからは『今後は、事務的な会話以外しません。』と宣告され、子供に近づくと『こつちに来ないで…。近寄らんで…。』と2人とも逃げて行きました。その頃の私は、原因を考えようともせず『何で逃げるん…。』とも言わず『もう、好きにせいや…。もう、どうでもええ…。』と修復の努力もしませんでした。奥さんや子供の気持ちも考えませんでした。ついに、奥さんは子供を連れて別居。2年後、裁判所から離婚調停の手紙が届きました。『離婚はしたくない、元の生活に戻りたい。』と主張しましたが、調停員からは『奥さんは、とつくに新しい生活を始めています。今さら、無理でしょう。』と説得され、離婚を受け入れました。離婚後、孤独で今を忘れない。案になりたい。と益々飲みました。特に子供の

事を思い出すと、辛くて『酒・酒・酒…』でした。

離婚調停の内容には『養育費の支払い、定期的な子供との面会。』という記載がありました。養育費を払っても、子供には会えませんが、元のお奥さんに頼んで、子供と会う日を決めようとしたが、元のお奥さんから『子供は会いたいかねエ…。自分で聞いてみて…。』と言われました。上の子供に代わると『お父さんなんか嫌いなんじゃけえ…。お酒飲んで働いてくれ…。もう会いたくないんじやけえ…。』と泣きながら言われました。その会話が最後で、6年間話しをしていません。ショックでした。会話ができなくても、せめて元気な姿が見たいと思い、運動会や学習発表会を見に行っておりま。見学に行つた時、微笑み掛けながら子供を見ますが、子供は視線をそらせます。元のお奥さんは、逃げるように去って行きます。元気な姿を見られただけでも、幸せと思わなければいけないと思うのですが、正直虚しいです。行事が終わり、一人で家に帰ると苦しくなります。

手紙も出しています。誕生日と

クリスマスにお小遣いと一緒に送っています。お正月には、年賀状とお年玉を元旦に届くようにしています。しかし、この3年間何の連絡もありません。子供の声が聞きたいし、せめて様子が知りたいです。去年は、上の子が中学入学でお祝を奮発しました。入学式に行つたのですが、子供は居ませんでした。学区内の中学ではなく、広島私立中学に入学してました。秋には運動会に行き、こっそり元気な姿を見て帰りました。広島から呉に帰るまで、結構へこみました。

断酒生活は、楽しく過した過去と比べ、苦しく辛い毎日でした。



(不謹慎ですが)復職後、仕事の帰り、誰か自転車を後から自動車に引いてくれ。毎日思いながら帰宅していました。しかしながら、新しく始まった断酒生活は、飲酒時代とは違つて来ました。例会に出て皆様の体験談、院長先生の講話を拝聴し、苦しい・辛いが少し和らいだ気分になります。それで、断酒できている。生きています。ある時、院長先生から『まあ、ええように解釈せい。』と言われたことがあります。その一言で色々な場面で自分の気持ち・考え・行動に変化がありました。

会社に復職し、養育費を払うことができ、誕生日には、お祝いを。クリスマスには、カードとお小遣いをお正月には、子供に年賀状とお年玉を渡せてます。元のお奥さんの年賀状には『大切に育ててくれて有難う』という言葉添えて送ることができています。また、嫌な仕事でも仕事を与えてもらつていてと考えています。真面目に逃げずに遣っています。今できることは果しているのです、そんなに引け目を感じなくてもいいのではないかと思うようになりました。できる範囲の責任を果たす行動を

している。だから、苦しい・辛いが少し和らいでいるように思います。ゼロからここまで登れました。ここまで辿り着けたことは、悪いことではないと思つています。最後にここまで辿り着けたのは、院長先生をはじめ、医療スタッフの皆様、呉みどり断酒会の諸先輩、仲間、家族の皆様のお陰と思ひ、感謝しています。自分らしい人としての生き様。元のお奥さんや子供達にも恥ない生き方をしたいです。これからも毎週金曜日に深夜バスで大坂から呉に戻り、例会出席を続けていきたいと思つています。

断酒継続表彰者
(創立47周年記念)

- ☆ 一年表彰 金子 武久
- ☆ " 名田 信之
- ☆ " 高井 行雄
- ☆ " 中本 芳夫
- ☆ " 住村 博士
- ☆ " 林 健太郎
- ☆ " 对川 豊
- ☆ 三年表彰 片山 久人
- ☆ " 福永 里美
- ☆ " 前田 敏美
- ☆ " 伊藤 康浩
- ☆ " 舛田 厚

- ☆五年表彰 廣野 幸則
- ☆ ” 中島 和明
- ☆七年表彰 藤田 数夫
- ☆ ” 加藤 勝美
- ☆十年表彰 曾根 敏浩
- ☆十五年表彰 小田多美子
- ☆ ” 飯畑 一徳
- ☆三十年表彰 渡部 憲
- ☆ ” 宮野 積

今年も創立四十七周年記念例会が2月8日、我々の原点である呉みどりヶ丘病院で多くの朋友達に参加して頂き、盛大に行われた。



創立四十七周年記念御祝・御芳名

- 呉みどりヶ丘病院 院長 長尾澄雄様 一〇、〇〇〇円
- 山根文字様 五、〇〇〇円

寄付者御芳名

- (二月度) 田代時弘様 五、〇〇〇円
- 香川 匿 名様 三、〇〇〇円
- 呉 藤川芳文様 五、〇〇〇円
- (二月度) 山下成幸様 五、〇〇〇円
- 呉 宮野 積様 五、〇〇〇円
- 佐藤正明様 三、〇〇〇円
- 呉 小池保男様 二、〇〇〇円
- 住吉秀則様 三、〇〇〇円
- (十二月～二月度) 北田 武様 三、〇〇〇円
- 六、四四三円 高野直美様 三、〇〇〇円
- 感謝箱 新谷義隆様 三、〇〇〇円
- 石川尚子様 三、〇〇〇円
- 中野秀子様 三、〇〇〇円
- 宮野 積 三、〇〇〇円

新入会員紹介

- 呉市宝町一―三―五〇六号室 安岡 利勝
- 呉市広古新開四―九―一七 中渡瀬陽一
- 安芸郡熊野町新宮一―一九―七 石田 博文

断酒継続おめでとう

- ☆二年 山内 鉄平 1月18日

行事予定

☆ ” 島本 辰馬 2月1日

- 4月20日 第49回四国断酒ブロック (高知) 大会
- 5月10～12日 (高知県県民文化ホール)
- 6月8日 第70回松村断酒学校 (本山町プラチナセンター)
- 6月21日～22日 全断連第4回定時社員総会 (晴海グランドホテル)
- 6月29日 岡山県津山断酒新生会 創立40周年記念大会 (津山文化センター)
- 7月19～20日 第13回鳥取県断酒会 (ホテル 大山) 一泊研修会
- 8月29日～31日 第44回山陰断酒学校 (松江市玉湯町公民館)

平成25年12月～平成26年2月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他会員	院内会員	17-セブ	合計
土曜例会	11	352	144	58	245	814	271	1,884
水曜例会	11	341	138			15		494
家族の集い	3		23					23
ブロック例会	3	39	18					57
新会員を開んで	3	37	17					54
院内懇談会	3	6						6
特別院内断酒例会	2	35	17					52
呉みどり断酒会第47回断酒なし断酒会	1	36	15	4	3			58
呉みどりヶ丘断酒会第44回断酒なし断酒会	1	26	6					32
平成26年度新年合同初例会	1	33	14	8	11	74	42	182
第37回愛媛県フナイトセミナー	1	11	3					14
呉みどり断酒会創立47周年記念例会	1	37	15	13	16	73	24	178
県連理事会	3	16						16
呉みどり断酒会役員会	3	22						22
合計		991	410	83	275	976	337	3,072

【平成二十六年度 役員】

- 常任相談役(監査) 田中 正直
- 会長 渡部 憲
- 副会長兼事務局長 曾根 敏浩
- 副会長兼進行・編集 石橋 剛
- 常任理事(行事) 佐伯 忠
- 理事(事務局) 廣野 幸則
- 理事(会計) 鍋山 秀一
- 理事(編集) 片山 久人
- 理事 福永 里美
- 理事 山内 鉄平
- 役員一同、新たな気持ちで頑張ります。宜しくお願致します。